

■ 各日の質問予定者

日	順 番	氏 名
12月8日(金)	1	こ ん ど う 彰 治
	2	江 口 修 一
	3	橋 本 洋 一
	4	杉 田 勝 典
	5	宮 川 大 樹
	6	滝 沢 一 成
	7	中 土 井 か お る
12月11日(月)	8	ストラットン恵美子
	9	本 山 正 人
	10	上 野 公 悦
	11	高 橋 浩 輔
	12	鈴 木 め ぐ み
	13	栗 田 英 明
	14	丸 山 章
12月12日(火)	15	平 良 木 哲 也
	16	山 田 忠 晴
	17	安 田 佳 世
	18	大 島 洋 一
	19	橋 爪 法 一
	20	宮 崎 朋 子
12月13日(水)	21	高 山 ゆ う 子
	22	宮 越 馨

※各日の質問予定者は、変更になる場合があります。

順番 氏名	質 問 事 項
1  こ ん ど う 彰 治	<p><b>1 市長の公約・政治姿勢について</b></p> <p>(1) 市長は、令和5年11月9日で就任から2年を迎え、任期の半分を終えた。市長自らの公約は45項目に分類・整理され、10月24日の定例記者会見において進捗状況は、45項目中43項目が着手できていると説明した。公約・政治姿勢に関する次の点を聞きたい。</p> <p>ア 45項目中43項目が動いており、市長の公表によると、実施(継続中含む)、一部実施・着手済又は未着手に区分しているが、全体的な進捗状況をどのように捉えているか。</p> <p>イ 「子育て日本一を目指す」など、中には達成判断が難しい公約もあると思うが、今後どのようにして進めていくのか具体的に聞きたい。</p> <p>ウ 実現不可能な公約は市民などを惑わす感も否めない。撤回する勇気も必要ではないか。</p> <p>エ 地域独自の予算は令和5年度から実施され、既の実現した公約とされるが、最終的な補助率の上限は7割であり、経過措置として令和6年度は9割、令和7年度は8割、令和8年度は7割と段階的に引き下げられる。3割を捻出することが事実上不可能な団体もある。見直しの考えはあるか。</p> <p>オ 「動いていない」とされるのは副市長4人制と政策諮問委員(政策アドバイザー)だけとなっているが、公約の実現に向けて、今後どのように取り組んでいくのか聞きたい。</p> <p>カ 「質問に対して市長の答弁があまりにもかけ離れていて質問に答えていない」「まったく噛み合っていない」と議会運営委員会で指摘され、市側に「的確な答弁を」と申し入れが行われた。市長としてどのような思いか。</p> <p><b>2 令和5年度の除雪体制について</b></p> <p>(1) 除雪計画も公表されたが、今冬の降雪予想や除雪体制について聞きたい。</p> <p>(2) 令和5年度から市道除雪作業報償金を支給するとしたが、申請状況と申請時における問題点などについて聞きたい。</p>

順番 氏名	質 問 事 項
2  江 口 修 一	<p><b>1 通年観光計画について</b></p> <p>(1) 高田、直江津、春日山を重点地域とした上越市通年観光計画の中間とりまとめの中で、7年間で総額50億円の事業費を見込むとの説明があった。予算根拠もなく、本当に残り2年の任期中に、具体的な施策が作れるのか。</p> <p><b>2 スポーツツーリズムについて</b></p> <p>(1) サイクルやトレイルランをはじめとする、スポーツによるまちづくりと観光振興施策の現状はどうか。特に、13区の中山間地域や桑取地区のスポーツによる観光振興についてどう考えているか。</p> <p><b>3 水族博物館管理運営費について</b></p> <p>(1) 水族博物館管理運営費の令和4年度決算から見えてきた損益分岐点は、入館者数何人の時点であったか。またその利用料金収入はいくらか。</p> <p>(2) 鯨類の飼育展示に関し、6頭を飼育する施設環境と設備を備えており、収支の面からも、今後の運営にこれら鯨類の飼育展示が必要不可欠と考える。いつからバンドウイルカ4頭、シロイルカ2頭の飼育展示に戻るのか。</p> <p><b>4 健全財政維持のための施策について</b></p> <p>(1) 令和4年度決算では、財政力指数がさほど上がらず、経常収支比率が高く、財政の硬直化が進んでいる。実質公債費比率も上昇し、財政構造にも弾力性がなくなってきた。財政調整基金も減り続け、第3次財政計画も先細りであり、この状況を不安に感じるが、市長はどのように評価するか。</p> <p>(2) 第7次行政改革推進計画では、新たな方針が示された。第7次総合計画では、SDGsの推進を掲げ、第3次財政計画や第4次定員管理計画、さらには人事改革の推進やICTによる情報化推進に基づくDX化も急がれる。これらの各種計画等の目標を達成した上で、第7次行政改革を達成することはできるのか。</p> <p>(3) 健全財政維持のためには、歳入増より歳出削減を進めるべきと考えるがどうか。令和4年度決算から見えてきたもので、具体的に改革が必要と考えているものはあるか。</p> <p>(4) 公共施設の管理に当たり、他の自治体では、包括保守点検委託に取り組んで行政コストの圧縮を図っている例もあると聞く。当市においても、このような委託契約のやり方に前向きに取り組む考えはないか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
3	<p><b>1 中川市政の評価と課題について</b></p>
橋本洋一	<p>(1) 中川市政は2年が経過したが、以下の点におけるこれまでの取組の成果、評価及び今後の課題について聞きたい。</p> <p>ア 組織運営                      イ 人口減少・少子高齢化対策                      ウ 地域コミュニティの維持                      エ 地域防災力の維持</p> <p><b>2 冬期間における道路交通の確保について</b></p> <p>(1) 令和4年度に長岡、柏崎両市を中心とした大雪により国道の大規模な立ち往生が発生した。当市において同様の大雪となった場合、どのように国や県などと連携して対応していくのか。また、今冬の市の除雪対策に反映させるものはあるのか。</p> <p>(2) 令和4年度に実施した、ICT技術を活用した除雪支援システムの実証実験、ワンオペ除雪の試行実施の結果はどうであったか。また、本格実施の目途はどうか。</p> <p><b>3 市内の情報共有の在り方について</b></p> <p>(1) 市長は、学校での食物アレルギー事故や高齢者施設での虐待といった重大事案を報道で知ったと発言しているが、重大事案を報道で知ったということについての自身の責任と再発防止策について聞きたい。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
4	<p>1 北陸新幹線金沢～敦賀間開業に伴う当市の取組について</p>
杉田勝典	<p>(1) 令和6年3月16日開業の敦賀延伸をチャンスと捉え、当市の観光などの振興・発展に繋げていくため、具体的な施策をどのように考えているか。</p> <p>2 「年収の壁」対策導入について</p> <p>(1) 政府は、人手不足の要因になっている「年収の壁」対策として、令和5年10月から、パートやアルバイトで働く人が「年収の壁」を意識せずに働ける環境づくりを後押しするため、手当支給や賃上げなどに取り組む企業に対する助成制度などを創設した。これに期待する効果を聞きたい。</p> <p>3 地域農業の課題について</p> <p>(1) 令和5、6年度の2年で将来の農地の効率的かつ効果的な活用を図るべく地域計画を策定することとされているが、現時点での取組状況を聞きたい。</p> <p>(2) 市内平野部でも農業者の高齢化や後継者不足が大きな課題となっており、各農業法人では地域農業の継続を懸念している。市として、この問題に対してどう危機感を持ち、取り組んでいくのか聞きたい。</p> <p>4 謙信公とも縁の深い七尾城との「山城」繋がりを活かしたコラボについて</p> <p>(1) 石川県七尾市では、謙信公とも縁の深い七尾城跡の保存活用と観光振興に向けた周辺整備を進めている。北陸の山城同士でもある七尾城とのコラボで、春日山城をさらに盛り上げる取組を検討してはどうか。あわせて、春日山城のCG画像(3D・AR・MR等も含め)を制作・活用するなどしてはどうか。</p> <p>5 単身高齢者の終活支援について</p> <p>(1) 当市の単身高齢者の実態をどう捉えているか。頼れる家族が全くいないケースの実情はどうか。有償で終活サポートを提供する事業者もあるが、その実態はどうか。</p> <p>(2) 市では、終活について、すでに相談窓口で対応しているが、今後、単身高齢者の増加が見込まれる中で、終活支援条例を制定し、取組を強化する考えはないか。</p> <p>6 自転車ヘルメット着用の促進に向けた施策について</p> <p>(1) 自転車利用者のヘルメット着用が努力義務となった。着用率を高めるために、新たにヘルメットを購入した人に対して購入費用の一部を助成する制度を導入してはどうか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
5	<p>1 エネルギー価格高騰対策について</p> <p>(1) 令和5年度のエネルギー価格高騰支援金の申請件数や交付実績はどうだったか。</p> <p>(2) 今冬のエネルギー価格高騰支援対策はどうするのか。</p>
宮川大樹	<p>2 産業廃棄物最終処分場整備について</p> <p>(1) 新潟県は令和5年3月に柿崎区の竹鼻地区と下中山地区を整備予定地としたが、以下の点について聞きたい。</p> <p>ア 進捗状況はどうか。</p> <p>イ 今後の市の関わり方はどうか。</p> <p>3 保倉川治水対策について</p> <p>(1) 令和5年10月31日に第5回関川・保倉川治水対策検討部会が開催されたが、保倉川放水路整備の進捗はどうか。</p> <p>(2) 放水路の完成までには相当の時間を要するものと考えられるが、保倉川の現状においては下五貫野など一部において、土砂の堆積が見受けられ、地元住民から心配している声を聞く。対応状況はどうか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
6	1 上越市通年観光計画について
滝沢一成	<p>(1) 新潟日報社が共同出資した株式会社E s s aが、通年観光計画の策定を支援しているが、市長の通年観光に対する考え方はどのように伝えられて、中間とりまとめに反映されているのか。</p> <p>(2) 令和5年11月に示された中間とりまとめに記載されている計画の取組方針について、以下の点を聞きたい。</p> <p>ア 「歴史文化の価値化」とはどういう意味か。長年よく言われてきた「豊かな歴史を観光資源に」とどこが違うのか。</p> <p>イ 3地域の集中的な観光地域づくりとは、かつての計画にあった「高田、春日山、直江津への集中」という考え方とどこが違うのか。</p> <p>ウ 「上越市プラス広域で集客・発信」とある中、ニーズに対するコンテンツ不足と書かれているが、これはどういう意味か。</p> <p>エ 広域となれば、妙高市との連携をどう考えているか。また、妙高市で始まるとされている大型のリゾート開発をどのように分析しているか。</p> <p>オ 「13区等へシャワー効果」とあるが、どのように行うのか。</p> <p>カ これまで構想・提案されたことを、ひとつにまとめただけに見受けられる。どこに新規性があるのか。</p> <p>キ 年間でどの程度の経済効果があれば成功と言えるのか。</p> <p>(3) 春日山地域における計画について、以下の点を聞きたい。</p> <p>ア 「義の心と強さに出会う」とはどういう意味か。それはどう体现されるのか。</p> <p>イ 春日山城への一般車両の進入禁止はどこからの提案で、なぜ取り入れたのか。また、どういうメリットがあるのか。</p> <p>ウ 拠点施設の具体的な仕様について説明してほしい。</p> <p>(4) 直江津地域における計画について、以下の点を聞きたい。</p> <p>ア 「歴史と人情の日本海うみまち」とはどういう意味か。</p> <p>イ 現在の五智公園にあるD51-75をレールパークエリアへ移設し、動態保存するとあるが、その実現に掛かる費用と時間はどうか。</p> <p>ウ 船見公園の活用について、具体的な姿を示して欲しい。</p> <p>(5) 高田地域における計画について、以下の点を聞きたい。</p> <p>ア 「雁木でつながる花咲く共助の城下町」とはどういう意味か。</p> <p>イ 持続可能なまちづくり組織とは何か。地域まちづくり会社、高田のための会社とは何か。なぜ直江津のための会社はなくて、高田のための会社はあるのか。</p> <p>ウ 寺町の寺院との連携はどのように進めるのか。政教分離の考え方をどのように踏まえて進めていくのか。</p> <p>エ 「枅形門の復元的整備の可能性について調査研究を行う」とあるが、調査研究は幾度となく繰り返されてきたと認識している。さらに調査しなくてはならない理由は何か。あとは実行するだけと思うがどうか。</p> <p>(6) 事業費50億円の根拠は何か。</p> <p>(7) そもそもなぜ上越市は観光都市になる必要があるのか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
7	<p><b>1 介護人材不足の対策について</b></p> <p>(1) 介護職員数について厚生労働省が2021年に公表したデータによると、2025年には約32万人、2040年には約69万人が不足すると予想しているが、当市ではどのように予測し対策を考えているか。</p> <p>(2) 介護施設においては、ICTや介護ロボット等の導入により業務の負担軽減を図っている施設が増えているが、市内施設の状況はどうか。また、市として支援する考えはあるか。</p>
中 土 井 か お る	<p><b>2 障がいのある人の就労の取組について</b></p> <p>(1) 障がいのある人の経済状況についてどのように捉えているか。また、福祉的就労における工賃や賃金アップの取組状況と課題、今後の支援についてどのような考えがあるか。</p> <p>(2) 障害者雇用促進法には、事業主に対し障がいのある人への合理的配慮が義務付けられているが、合理的配慮を行うことで意欲向上に結びつき就労の定着につながったという好事例が増えている。市役所および市内の障がい者を雇用している事業所の合理的配慮の取組状況はどうか。</p> <p><b>3 ふるさと納税の「思いやり型返礼品」導入について</b></p> <p>(1) ふるさと納税の返礼品を「地域貢献、支援」する寄付へとシフトする自治体も増えている。近年は、20代の「災害支援」や「故郷への応援」といった若者の社会貢献意識の高まりが目立っている。当市でも、思いやり型返礼品を充実してはどうか。</p> <p><b>4 包括的性教育の推進について</b></p> <p>(1) ユネスコの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」では、性教育を人権教育と捉え、すでに多くの国で幼少期から年齢に沿った教育プログラムを繰り返し学習している。当市における取組について、以下の点を聞きたい。</p> <p>ア 学校での包括的性教育の現状はどうか。</p> <p>イ 当市においても、包括的性教育についての啓発を行っていく必要があると考えるがどうか。</p>

<p>順番</p>	<p>質 問 事 項</p>
<p>氏名</p>	
<p>8</p>	<p>1 女性活躍の推進について</p>
<p>ストラットン恵美子</p>	<p>(1) 起業、創業する女性と、その女性たちを取り巻く家庭や社会環境に即した支援拠点を作るべきと考えるがどうか。</p> <p>(2) 女性デジタル人材の育成など、リスクリングの推進を積極的に行うべきと考えるがどうか。</p> <p>2 子どもの社会参画推進について</p> <p>(1) 令和4年6月に内閣府から国会へ提出された報告書「子ども・若者の状況及び子ども・若者育成支援施策の実施状況」によると、子どもたちの約20人に1人が「どこにも居場所がない」と感じている。子どもたちが自己肯定感や自己有用感を高め、幸せな状態で成長できるよう、多様な居場所を用意することが重要であり、オープンアクセスの施設「ユースセンター」は、学校や家以外の居場所の1つとして、子どもたちのWell-beingを満たす効果が期待できる。また、ヤングケアラーや不登校など複雑な課題やニーズも察知しやすいと考えるが、当市でも導入を検討してはどうか。</p> <p>(2) 子どもたちが参画しやすく、社会や身近な地域に関する課題などへの理解を深め、その課題解決に向けた提案や意見などを積極的に収集して市政に反映する仕組みが必要と考えるが、当市ではどのように行われているか。</p> <p>(3) 社会や地域と繋がる取組として、子どもたちが積極的に社会奉仕活動に参画することは大切であると考えているが、当市の現状について聞きたい。</p> <p>3 コミュニケーションできる英語教育の推進について</p> <p>(1) 横浜市立南高等学校附属中学校で開発され、全国に広がりを見せている英語の学習指導方法「5ラウンドシステム」について、当市でも取り入れてはどうか。</p>

順番	質問事項
氏名	
9	<p><b>1 予約型コミュニティバス事業について</b></p> <p>(1) 現在、安塚区と牧区で実施されている予約型コミュニティバス事業は、地域住民に大変喜ばれている。さらに拡大する計画があるか。</p> <p>(2) 運賃について、区内移動は一律200円(一般)と格安であるが、近隣の区への移動も格安に設定する考えはないか。</p> <p><b>2 市道舗装修繕整備について</b></p> <p>(1) 現在、当市の市道の実延長は2,832kmと長く、道路管理の一環で道路パトロール員が定期巡回している。地域の要望で舗装道路の欠損箇所を通報しても、なかなか着手してもらえず、特に中山間地域での傷みが多い。優先順位をどのように設定して修繕を実施しているのか。</p> <p>(2) 多雪地域においては重い除雪機械が頻繁に通行することによる損傷も多いと思うが、その対策をどのように行っているのか。また、春先の排雪費用の一部を道路修復費用に充てられないか。</p>
本 山 正 人	
順番	質問事項
氏名	
10	<p><b>1 新潟労災病院閉院問題と直江津・上越地域の医療体制の機能充実について</b></p> <p>(1) 2023年(令和5年)6月21日、上越地域医療構想調整会議が開かれ、「新潟労災病院の機能(医師数、入院患者数、緊急受入れ)が低下し、閉院に至るので、上越医療圏域の他病院で機能の低下を補うために、新潟県地域医療構想のグランドデザインに沿って、再編・集約することに同意し、今後早いうちに具体化する」とされた。今回の問題は、単に新潟労災病院だけの問題ではなく、国の医療政策とそれに基づいた地域医療構想が根底にあると認識している。地域医療の役割は、地域に居住する市民の命と健康をしっかりと守るために、必要とされる医療体制を構築し、安心できる医療を提供することにある。そこで次の点について市長の考えを聞きたい。</p> <p>ア 上越市民の命、暮らしを守るという医療の目的と使命に向けた上越医療圏に必要な課題や、本質的な課題達成に向けた医師や医療スタッフの確保など、重要な議論をないがしろにして、いきなり閉院を前提に、それによって低下する医療機能を他病院で補うという「再編・集約の具体化」という議論で良しとしているように思える。問題の本質は医師・看護師の決定的不足であることをどう認識しているか。</p>
上 野 公 悦	

イ 「新潟県地域医療構想のグランドデザイン」の考え方は、医師・看護師不足を打開することなしに、現状のまま医療の効率化という国の方針に沿ったものだ。具体的には、特定の病院に高度医療や医師などを集約して「手術」や「救急」に対応し、それ以外の病院からは手術の機能をなくすという病院の格付け・機能分担だと読み取れる。この考え方は、広域である上越医療圏域にふさわしいと思うか。地域住民の命と健康をしっかりと守る医療を構築できるのか。

ウ 結論的に、新潟労災病院をどうするのか。市内人口集中地域の一角である直江津から病院がなくなっても仕方がないで済まされる問題か。運営主体は違うが、市長は、市民の健康と命、地域医療を守っていくため、1つの病院も閉院させず、新潟労災病院は上越の基幹病院の1つになるべきだという認識を持つ必要がある。医療提供体制が貧弱になりつつある最大の問題は、全国最悪クラスの医師・看護師不足であるが、医師・看護師の確保に向け、市独自に抜本的な手立てを取るべきではないか。また、県に対しては県独自の医師養成機関の設立、国に対しては医師減らしの医療政策の根本的変更など、具体的な方策を示して市独自に要望すべきではないか。

## 2 通年観光への取組について

(1) 上越市通年観光計画の中間とりまとめにおいて、高田・春日山・直江津の3地域で歴史文化を生かした観光地域づくりと観光消費額アップに集中的に取り組み、13区など周辺地域へ誘導することによって、シャワー効果を生み出すとしているが、この考え方に対して違和感を抱く。13区も含めて周辺地域には、これまで長年にかけて創り上げてきた文化や暮らしなど、素晴らしい観光資源、文化遺産などがある。このような考えを改め、地域にある一つ一つの文化・観光資産の価値を独自に高め、磨き上げていく方が必要だと思うがどうか。

(2) 市長は、令和5年8月30日開催の通年観光をテーマにした市民と市長との対話集会において、「観光をやってしまうと今までの生活が崩れてしまうことはどこの観光地でもある」と発言したと報道されている。市民生活を守ることが最大の責務である市長がこのような発言をすること自体、その資質を問われるが、市長の主張する「通年観光」が市民生活を崩してしまうようなものであれば、即刻方針を撤回すべきと考えるがどうか。「観光振興政策」は、あくまでも日常の市民生活を豊かにすることを前提にすべきものであり、観光振興を推し進めることで市民生活が犠牲になってはならない。このことをどう考えるか。

順番	質 問 事 項
氏名	
11	<p><b>1 上越市通年観光計画について</b></p>
高橋浩輔	<p>(1) 春日山地域における計画について、以下の点を聞きたい。</p> <p>ア 春日山城への一般車両進入禁止の計画が示されたが、計画に取り入れた理由や、どこからの発想で、どのような効果を狙うのかなど、詳細を聞きたい。また、春日山城のブランディングとどのように結びつくのか聞きたい。</p> <p>イ 一般車両を進入禁止とした場合、その後の対応はどのように考えているのか、詳細を聞きたい。</p> <p>ウ 拠点施設の整備計画について、立地位置や施設の内容等、現時点での詳細を聞きたい。</p> <p>エ 冬期における春日山地域の観光をどのように構想しているのか聞きたい。</p> <p>オ 謙信公祭100回、謙信公没後450年、生誕500年の節目の年と、どう連携させていくのか聞きたい。</p> <p>(2) これまでの間、通年観光に対する市民の理解は得られたと思うか。また、中間とりまとめにおいて、地域住民や関係団体、通年観光を公約に掲げた市長の思いを十分に反映できたと考えているか。今後、計画の策定までに、どのように地域住民や関係団体に説明し、協力を得ていくのか。</p> <p>(3) 春日山、直江津、高田に限らず、13区等の魅力磨きも引き続き進めていくことが必要であると思うが、通年観光計画においてどのように位置付けていくのか。</p> <p>(4) 通年観光を目指すのであれば、隣接する糸魚川市や妙高市との連携が不可欠と考えるが、どのように構想しているのか。また、これまでに観光面での広域連携をテーマに3市で協議をしたことはあるか。ないのであれば、今後上越市が主体となって協議の場を設けることは考えているか。</p> <p><b>2 遺族会の課題と今後の市の対応について</b></p> <p>(1) 遺族の高齢化や担い手不足により、各地区の遺族会の解散が相次いでいるが、これに伴い顕在化してくる課題について、市の対応を聞きたい。</p>

順番	質問事項
氏名	
12	<p><b>1 家庭ごみの有料化制度の見直しについて</b></p>
鈴木めぐみ	<p>(1) 市では平成20年度から家庭ごみの有料化制度が開始され、またそれに合わせて、バイオマス素材を含むごみ袋を、市の指定ごみ袋として採用した。約15年が経過し、この2つの制度について、現状の課題点はあるか。</p> <p>(2) 市がバイオマス素材を利用したごみ袋を導入した理由と目的は何か。</p> <p>(3) 循環型社会形成推進基本法に規定する基本原則を踏まえ、可燃ごみ用の指定収集袋などの素材となる燃やさざるを得ないプラスチックについては、原則としてバイオマスプラスチックを使用するという指針がある。当市はごみ袋の地域内製造、地産原料の使用、CO2削減という名目で、特殊なバイオマス素材として、比較的高価な非食用米などを利用しているが、以下の点について聞きたい。</p> <p>ア この取組は理解できるが、家庭ごみの有料化とバイオマス素材のごみ袋の採用は別問題であり、高い費用をかけてこれをバイオマス素材のごみ袋として使用する必要があるのか。市民の負担軽減のためにも、もっとコストの安いごみ袋を使うことはできないのか。このことについて市民の理解は得られているのか。</p> <p>イ 毎年、比較検討してごみ袋の製造業務を委託しているのか。</p> <p>(4) コストの高いバイオマス素材のごみ袋からより安いものへ変更することが、市民の経済的負担の軽減につながると考えられる。今の家庭ごみの有料化とバイオマス素材を利用したごみ袋の2つの政策について、再検討すべきと考えるがどうか。</p> <p>(5) 県内の自治体では、レジ袋の代わりとして、燃やせるごみ袋の極小サイズを1枚単位で試験的な取組で販売している店舗があるという。市内でも同様な取組を始めるべきではないか。</p> <p><b>2 公の施設のフードロス自販機の設置について</b></p> <p>(1) 市の公の施設における、フードロス自販機の設置状況はどうなっているか。</p> <p><b>3 高速道路のインターチェンジ名の変更について</b></p> <p>(1) 魚沼市は、関越自動車道の小出ICの名称について、「魚沼IC」へ変更するよう東日本高速道路へ要望し、これによる経済効果は16.6億円に及ぶと算定されている。当市も市内のICの名称変更に伴う経済効果を算定し、費用対効果が市の負担コストを上回るのであれば、名称変更の要望をすべきと考えるがどうか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
13	<p><b>1 議会の政策提言に対する行政の捉え方について</b></p>
栗田英明	<p>(1) 議会が令和4年に提言した『「地域自治・住民自治、地域協議会、総合事務所」への提言』については、令和5年7月に市の見解と取組の説明があった。その説明をもって提言への対応を終了としたのか。</p> <p>(2) 市長は、議会の政策提言をどのようなスタンスで捉えているか。これまで、行政は、議会の意見には拘束力がないとして、「承る」と述べるだけの扱いとしてきたように思える。しかし、議会の権能に政策立案・政策提言があることから、議会提言は、最重要取組事項と考えるがどうか。</p> <p><b>2 地域自治推進プロジェクトの進捗について</b></p> <p>(1) 令和4年10月6日の総務常任委員会で示した資料において、「検討の展開順序」として示していた『現状のまま推移した場合の課題の深掘り』と『20年後の将来を見据えた理想的な姿の考察』について結果発表をしてほしい。</p> <p>(2) 地域協議会の役割の再整理は先行検討となっており、令和6年4月の委員改選で反映させるとしていた。喫緊の取組となるがどこまで進んでいるか。</p> <p>(3) 最も早く導入されたのが地域独自の予算である。プロジェクトの全体像や理想の姿が明確になっていない段階での実施は拙速であったと考えるが、まずは今年度実施における総括と次年度での修正点を聞きたい。</p>

順番 氏名	質 問 事 項
14	1 市長の2年間における公約の成果について
丸 山 章	<p>(1) 市長の公約である45項目について、令和5年11月1日現在の進捗状況を公表し、実施(継続中含む)12項目、一部実施・着手済31項目、未着手2項目とした。しかし、成果は表面的でアリバイづくりのように思われるものも散見されるため、特に疑義等がある以下の項目について聞きたい。</p> <p>ア 実施(継続中含む)としたもの</p> <p>(ア)「不妊不育治療費を国の保険適用まで全額無償にします」は、実施しなかったのではないか。</p> <p>イ 一部実施・着手済としたもの</p> <p>(ア)「特定健康診断の受診率を上げ、寝たきりを少なくし『介護保険料や健康保険料を安く』します」について、主な実施内容は以前から取り組まれてきたものであり、新たな具体的取組はなかったのではないか。</p> <p>(イ)「地産品を購入してくれた都市住民が大災害時に上越市を避難先にできる『保険サービス』を提供します」について、先進地調査やニーズ調査の結果を示してほしい。</p> <p>(ウ)「ウッドショック(世界の材木不足)から、地元木材の利用を進めます」について、主な実施内容は、市長就任前から作成、推進されていたことであり、新たな具体的取組はなかったのではないか。</p> <p>(エ)「国のSDGs未来都市制度の導入に取り組めます」について、令和4年12月議会で私の一般質問に対して、国のSDGs未来都市モデル事業に、市長はまだ判断できる状況ではないとしたはずではないか。</p> <p>ウ 未着手としたもの</p> <p>(ア)副市長4人制、市長直轄の政策諮問委員の設置について、なぜ未着手としたのか。</p> <p>2 上越市通年観光計画(中間とりまとめ)について</p> <p>(1) このたびの計画は、目新しい企画が乏しく、中身は実証実験や研究、検討が多いうえ、事業費を7年間で50億円を見込むとしている。この内容で、市長公約の通年観光へと導いていけるのか疑問であり、本気度が伺えない。以下の点について聞きたい。</p> <p>ア 全体計画</p> <p>(ア) 計画概要の「主な施策」に市長の公約がほとんど入っていないのはなぜか。</p> <p>(イ) 3地域の「実現のためのステップ」3項目中の検討・構築に関する事項のまとめ及び実施体制確立の予定年度はいつになるのか。</p> <p>(ウ) 3地域ごとの各施策の優先順位(1番~3番)について聞きたい。また、優先順位1番目の施策に重点的に予算配分する予定なのか。</p> <p>(エ) 春日山地域のエリア別施策展開案が6つあるが、整備を優先して取り組むエリアはどこか。</p>

イ 春日山地域

(ア)「謙信公の城下町」を体験できる春日山城の整備を目指すとしているが、7年間の具体的な実施内容と、全体計画の何割程度の整備を予定しているのか。

ウ 直江津地域

(ア)「直江津D51 レールパーク」を一部鉄道遺産の集約施設(鉄道博物館)として位置付け、整備・保存・継承していくとしているが、市長公約の鉄道博物館の建設は断念したのか。

(イ)全国に蒸気機関車が500両程あり、既に直江津D51 レールパークでSL乗車体験が行われている。こうした状況下で、D51-75の移設・動態保存としているが、整備費には状態が悪い場合で5~6億円程を要する。果たして、投資に見合うだけの費用対効果、新しい価値を見出せるのか。さらに、鉄道マニア等の集客には活かせると思うが、通年観光に繋がっていくのか。

エ 高田地域

(ア)民間事業者がファンドを組成し、空き古民家・町家を活用して、店舗、宿泊施設、ショップ等の経営に取り組んでいる愛媛県大洲市の取組を参考にしているようだが、当市の城下町の歴史的街並みの保全を推進するうえで、大洲市の取組が当市に当てはまるのか。また、上越市バージョンはどのような体制・取組になるのか。

(イ)通年観光計画において、町家を歴史文化遺産と捉え、町家に居住している市民が町家を改修等したい場合に、支援する考えはないか。

(ウ)統一した雁木町家の活用策を整えないと、民間の都合で改修等され歴史的財産の価値を損ねることも懸念されるほか、歴史的な街並みを保全(形成)ができない恐れもある。雁木町家保存条例を整える必要があるのではないか。

(エ)大町通りにおける雁木町家の活用策における最終着地点は、どのような姿を想定しているのか。

(オ)浄興寺大門通りにおいて、道路、電柱、街灯、橋等の門前通りの雰囲気を感じる景観整備を行うとしているが、7年間の具体的なスケジュールを示してほしい。

順番	質 問 事 項
氏名	
15	<p><b>1 市職員のジェンダーギャップについて</b></p> <p>(1) 市の職員における性別平均給与の実態はどうなっているか。</p> <p>(2) 性別給与格差の是正のために、市としてどのように対応する考えか。</p>
平 良 木 哲 也	<p><b>2 带状疱疹ワクチン接種費用助成について</b></p> <p>(1) 带状疱疹ワクチンは、定期接種ではないことから、市としてその費用の助成は考えていないとのことだが、近年多くの自治体で独自に助成制度を創設している。助成制度を創設する考えはないか。</p> <p><b>3 市の公共交通政策について</b></p> <p>(1) 第2次総合公共交通計画では、バスの乗車率の低下等を問題にしているが、市民の利便性向上のために、以下のことについて取り組むべきではないか。</p> <p>ア バス路線の再編に当たっては、バスの利用者や、利用する可能性のある一人ひとりの市民の声を聞く調査を行うこと。</p> <p>イ 低額一律料金のバスや、乗り合いタクシーを設定すること。</p> <p>ウ バスと鉄道との共通乗車券や、定期券を発行すること。</p> <p>(2) 「バス路線を廃止する地域や、路線そのものがない地域においては、定期的な移動手段を確保する手法として、住民が主体となった互助による輸送が有効」としているが、安全確保や万が一の事故の補償、タクシー事業者への影響などの問題が多い。考え直すべきではないか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
16	<p><b>1 受験を控えた中学3年生のインフルエンザ予防接種について</b></p>
山田忠晴	<p>(1) 令和5年は、インフルエンザの流行により学級閉鎖等となる学校があり、子どもを育てる保護者、特に高校受験を控える中学3年生の保護者は不安を感じている。インフルエンザの予防接種は任意接種となっているが、当市の安全で安心して子育てができる環境づくりを一層推進させるため、中学3年生に対しては費用の一部を助成し、子育て世代の負担軽減に取り組むべきであると考えますがどうか。</p> <p><b>2 福祉マップについて</b></p> <p>(1) 障がい者や高齢者の方が外出、旅行等をする際の利便性向上を図るため、障がい者等の利用に配慮した施設等が分かりやすく記載された福祉マップの活用が広がっており、新潟県では「にいがたバリアフリーガイドマップ」として、新潟県内の公共的施設等のバリアフリー情報を調べることができるホームページを開設している。当市では、どのような形で情報発信しているか。</p> <p>(2) 全国の社会福祉協議会は、一人暮らしや高齢者世帯などが孤立しないよう、福祉情報の提供や定期的な見守り訪問、異常時の関係機関と連携した支援をしやすいように、地区別に「福祉マップ」を作成し、援助が必要な方の情報把握と共有を行っている。当市の社会福祉協議会では「ふれあい支え合いマップづくり事業」として、おおむね50世帯のご近所圏域を対象とし、地域の住民同士のつながりや関わり方、福祉(生活)課題などをマップに書き込み視覚化することで、身近な地域の状況の再確認(把握)に取り組んでいる。この取組について次の点を聞きたい。</p> <p>ア 市では、この取組に対してどのように関わっているか。</p> <p>イ 取組の現状把握、課題等をどのように把握しているか。また、課題がある場合、解決に向けてどのような取組を行っているか。</p>

順番	質問事項
氏名	
17	<p>1 上越市通年観光計画を含めた観光に関する取組について</p> <p>(1) 通年観光計画による効果をどのように見込んでいるか。</p> <p>(2) 通年観光計画によると、観光に取り組む意義は地域課題の解決であり、その手段として観光地域づくりを掲げている。春日山、直江津、高田の3地域における具体的な施策はあるが、その根底にある観光に取り組む意義や歴史・文化の継承といった目指す姿等を、市民や地域とより一層共有していくことが必要ではないか。そのために、どのように取り組むのか。</p> <p>(3) 観光地域づくりにおいて、「人」が重要だと考える。観光地域づくりに関わる人の創出、発掘、育成などをどのように実施、または支援するのか。</p> <p>(4) 通年観光計画では、稼ぐ仕組みの構築を意識し、新たな観光産業の創出や域内経済・活力の増大を目指すとしている。観光産業に関わる、またはこれから関わろうとする人や事業者に対する支援策を実施する考えはあるか。</p> <p>(5) 観光地域づくりのためには、市民や地域が積極的に関わることが大切である。市が目指す観光地域づくりに資する取組について、地域から地域独自の予算事業として提案があった場合、市が直接執行する事業として全額を支出して実行することで、市と地域が一体となって取り組んではどうか。</p>
18	<p>1 保倉川放水路整備について</p> <p>(1) 国では近年の気候変動を踏まえた計画の見直しを進めているが、令和5年7月26日に開催された第24回関川流域委員会において、「関川水系河川整備計画の変更骨子(案)」についてどのような審議がなされたのか具体的内容を聞きたい。また、10月31日に開催された第5回関川・保倉川治水対策検討部会において、関川・保倉川下流部における治水対策案についての審議内容はどうか。</p> <p>(2) 放水路開削後の津波対策をどう考えているのか。</p> <p>(3) 今後の保倉川放水路整備の進め方について聞きたい。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
19	<p><b>1 防災対策について</b></p>
橋爪法一	<p>(1) 「指定避難所における防災機能設備等の強化の推進について」(令和5年7月12日付け内閣府通知)の調査結果を踏まえ、国から助言されている「指定避難所の防災機能設備等の充実強化」と「防災機能設備等を指定避難所に保有しない場合における民間事業者との協定締結など、災害時に必要となる防災機能設備等の協力体制」の2つの事項について、当市の状況と対応はどうか聞きたい。</p> <p>(2) 今年度の新潟県の原子力災害を想定した訓練について、どのような評価をしているか。</p> <p>(3) 令和5年9月定例会の総務常任委員会において、消防施設整備計画実態調査結果で指摘した消防ポンプ自動車の整備率の課題について、市はどうか対応したのか聞きたい。</p> <p><b>2 農業問題について</b></p> <p>(1) 国では、「人・農地プランから地域計画へ」と取り組んでいる。市長はこの政策について、上越市食料・農業・農村基本条例の観点から、どのような基本姿勢で臨むのか。</p> <p>(2) 市は、地域計画策定の手順と体制について、どのように考えているか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
20	<p><b>1 当市における孤独・孤立対策の取組について</b></p> <p>(1) コロナ禍や、依然として続いている経済不安などにより、心身ともに不調を抱え孤立する人が増えていると懸念する。令和6年4月から「孤独・孤立対策推進法」が施行されるが、市として支援を強化していく上での課題は何か。</p> <p>(2) 次期の上越市自殺予防対策推進計画を策定するにあたり、コロナ禍以降の高齢化率や独居の増加などの要因をどのように分析し、反映して取り組んでいくのか。</p>
宮崎 朋子	<p><b>2 指定管理者との課題共有について</b></p> <p>(1) 当市においては、リフレ上越山里振興株式会社の不正受給を教訓に、指定管理者と日頃からのコミュニケーションを強化することで、課題を共有し解決できる体制づくりが必要である。その上で、コロナ禍から続くエネルギー価格高騰や物価高騰などの影響による施設運営の課題を市はどのように把握しているか。</p> <p><b>3 ふるさと納税のPRの方向性について</b></p> <p>(1) 令和5年度のふるさと納税の寄付額見込みが2億8千万円とされているが、このことは生産者や事業者の収入アップや販路拡大にも役立っていると考え。近年、事業者や商工業団体独自の積極的なPR活動が行われているが、市も包括的に連携していくことで、より当市の認知度が向上するのではないかと考えるがどうか。</p> <p><b>4 上越市マスコットキャラクターの利活用について</b></p> <p>(1) 市では、公式マスコットキャラクターのけんけんずを長年活用しているが、その活用頻度や市民の活用率が低いと考える。現在の公的機関以外での活用実績はどうか。より効果的、積極的な活用を図るべきと考えるがどうか。</p> <p><b>5 防災の観点から見る、通年観光に必要な取組の提案</b></p> <p>(1) 甚大な被災経験のある地域や、著名な観光地を持つ自治体においては、観光マップへの避難所の掲載や、いざという時に役立つ避難情報の常時アナウンスをしているところがある。当市が通年観光を目指す上では、こうした防災の視点も必要と考えるがどうか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
21	<p><b>1 子どもたちの食の安全について</b></p> <p>(1) 令和4年度に引き続き、市内小学校で給食によるアレルギー事故が発生し、現場における栄養教諭と調理員双方のチェックミスが明らかになったが、なぜこのようなミスは起きたのか。当市におけるアレルギー症状を持つ子どもに対する学校給食の在り方と、今後の再発防止及び緊急時の対応に向けた取組や市民への情報公開の在り方について聞きたい。</p>
<p>高 山 ゆ う 子</p>	<p><b>2 子育て支援として紙オムツの無償定期配達と見守りについて</b></p> <p>(1) 安心して子どもを産み育てられるまちづくりを目指し、当市で生まれた大切な赤ちゃんに対して、生後2か月から満1歳までを対象に、紙オムツの無償定期配達と赤ちゃんと保護者の見守り訪問支援を検討してはどうか。</p> <p><b>3 地域協議会委員の改選と地域独自の予算について</b></p> <p>(1) 令和6年春の地域協議会委員の改選に向け、どのようなやりがいや魅力を前面に出して委員を募集するのか。また、制度の見直しや運用の工夫などの考えはないのか。</p> <p>(2) 地域独自の予算について市長の理念は何か。現在の制度は、市が直接執行する事業と地域の団体が市の補助金を受けて実施する事業の2種類が混在し、その補助率の上限が低減される仕組みになっており、市民には非常にわかりにくくなっている。また、全ての提案団体が自主・自立的な運営ができていないことから、補助率が低減することに関して市民から懸念の声があるが、どのように受け止めているか。</p>

順番	質 問 事 項
氏名	
22	<p><b>1 農業経営における異常高温対策について</b></p>
宮越馨	<p>(1) 今夏の異常気象による農業経営へのダメージ対策として、全国で一番厳しい状況に陥った上越市の農業者等に対して、減収補てん策を講じるべきと考えるがどうか。</p> <p>(2) 農業収入が減少し、厳しい経営状況に直面している農業者等に対して、令和6年度の営農継続に向けて経営リスクに備えつつ生産意欲が保持できるよう、高騰する生産資材の購入に係る経費の一部を支援するとして補正予算化しているが、次の点を聞きたい。</p> <p>ア なぜ生産資材費の合計額の18%に相当する額で、上限額を20万円にしたのか。</p> <p>イ その結果救済される農業者等はどの程度になるか。</p> <p>ウ 大規模農家に対する救済は上限20万円で十分なのか。その根拠と実態を聞きたい。</p> <p><b>2 高田地区における雪対策について</b></p> <p>(1) 上越市なかんずく人口集積地の高田市街地における雪対策については、長い長い雪との闘いの歴史があり、市民が安心して暮らす上での最大の不安要素となっている。更に高齢化が進む今日、雪処理が一層の負担となっている現状に鑑み、次なる大胆な雪対策を提案するが所見を聞きたい。</p> <p>ア 地盤沈下の恐れがなく消雪力抜群の「(宮越式)加温式消雪パイプ」を全ての消雪パイプのない狭隘道路(市道)に敷設する。</p> <p>イ 屋根雪を下ろす必要のない建物構造への転換を進める。</p> <p>ウ 連坦する市街地における一斉屋根雪下ろしを回避できる対策を講じる。</p> <p>エ 克雪用及び洪水調節用ダムである「儀明川ダム」を早期に完成させる。</p> <p><b>3 直江津新潟労災病院の存続問題と上越地域医療センター病院の再整備の在り方について</b></p> <p>(1) 新潟労災病院については、当面は上越地域医療センター病院の分院として存続させ、センター病院の大改修問題に合わせ、市が責任をもって地域医療の拠点病院として存続させるため、国の労働者健康安全機構から移譲を受け、存続に必要な整備を行い、高齢化社会が進む中でしっかりと住民への医療サービスが提供できる態勢を整えることがベストと考える。現時点での構想はどのように考えているか。</p> <p><b>4 中川市長就任2年を振り返っての、出处進退問題など政治姿勢について</b></p> <p>(1) 9月定例会でも聞いたが、「出处進退を考えるべきである」との質問に対する答弁を求める。</p> <p>(2) 中川市長の任期2年を振り返ってみるに、市長には「分かっている者になるべきであった」と思う。ただ若ければいいというものではなかった。「市長をやりたいかった」ではだめだったことが明確となったといえる。ただただ混乱の2年間であっ</p>

- たとみる。こうしたことが大きく市政の発展を遅らせてしまったといえる。市民に対する愛(リスペクト)も市民に対する責任感もないでは困る。任期半ばであるが、多くの市民からは今直ちに退陣することが市民にとって最も幸甚と受け止めているのが現状だが、所見を聞く。
- (3) 市長肝いりの「通年観光」「通年観光」「通年観光」と叫ぶ中で示された「上越市通年観光計画(中間とりまとめ)」を見て驚いている。通年といいながら冬季間が抜け、スキーの発祥地も抜け、13区も抜け、グリーンツーリズムも抜けているなど全く上越市の実態が把握されておらず、市長のビジョンも全く見えない。単なる企画会社への丸投げの結果としか映らない。魂のない計画には驚きだが、市民との対話集会で得たものはどう反映させたのか。
- (4) 今夏の異常高温による農家収入の減収対策の在り方を見て、市長は農業・農村・農業者に対して大変冷たい考えの持ち主であることが分かった。わが市は「農都市」であり、農業・農村・農業者がいてのまちを否定するような市長は不適格者であると多くの農業者たちが言っている。所見を聞く。
- (5) 日本一住みよいまちにする、子育て日本一にする、雁木通りを世界遺産にするというのに、何の手応えも感じないのはどういうことか。多くの市民は笑っている。真の狙いは何だったのか。
- (6) 地域協議会制度をさしたる根拠もなく思い付きで変えたため大きな混乱が生じている。ガバナンスがなっていない。強引に進めている、制度上あり得ない独自予算制度は直ちに廃止すべきである。また、協議会委員の構成は地域活動団体(町内会・振興協議会など)からの推薦枠と公募委員の割合をそれぞれ50%ずつとし、諮問答申制度はそのままとしながら、地域活動を支援するために予算を各地域に配分し、地域協議会独自で配分された予算の枠内で自主的に審議・実行し、地域の活性化を図ることとする方が合理的であり、士気も向上すると考えるが、所見を聞く。
- (7) 様々な場面での異常言動や失言が多く、記者会見においても職員のサポートなしではやれないのではどうしようもない。市民からはすでに大きく信頼を失っている。「信なくば立たず」であり、市長職に留まることに限界を感じるが、どう認識しているか。
- (8) 行政事務事業の進め方を見るに、市長からの明確な指示がないため、多くの優秀な職員は混乱に陥って市政に停滞感が漂っている。また、リーダーシップをとれない代わりに、市民への御用聞き態勢と表敬訪問市政はパフォーマンス市政に過ぎず全く生産性が見えない。市民に対して「検討」「検討」「検討」では市長としての仕事ができないという姿が浮き彫りになった。こうした状況をどう分析するか。
- (9) 議会答弁が用意されている場合はともかく、再質問などフリー答弁は聞くに堪えない。部長などの答弁が多く、市長としての存在感の薄い市長は見たことがない。恥ずかしい限り。俯瞰力も政策力も実行力も乏しいリーダーシップに欠ける市長職をこれ以上続けることは市民不在・職員不在となり、直ちに市長職を辞すべきであるとするがその決意はあるか。